

平成29年度行政事業レビューシート ( 厚生労働省 )									
事業名	公衆衛生上の緊急事態に備えるための国際的なワクチン研究開発等支援事業 (CEPI)			担当部局庁	大臣官房国際課			作成責任者	
事業開始年度	平成29年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	国際課			秋山 伸一	
会計区分	一般会計								
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	-				
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	CEPI(感染症流行対策イノベーション連合)は、世界的に重大な影響を与える可能性が高い一方で、平時において需要が少ないエボラ出血熱等の感染症に対して、そのワクチンの国際的な研究開発を推進する。								
事業概要(5行程度以内。別添可)	CEPIへの資金拠出(年2,500万ドル)により、今後、重篤な大流行を起こす可能性の高い感染症に対するワクチンの早期臨床開発を支援する。具体的には、WHOブループリントにおいて重篤なアウトブレイクを起こす可能性のあるものとして挙げられた疾患に対するワクチン開発のうち、科学的評価を踏まえ選定された最大6件の開発案件に出資する。また、理事会や科学的諮問委員会、ワーキンググループなど、ガバナンスにも関与し、我が国の貢献及びリーダーシップを継続的に発揮していく。								
実施方法	その他								
予算額・執行額(単位:百万円)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求		
	予算の状況	当初予算	-	-	-	2,750	2,800		
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
	計		0	0	0	2,750	2,800		
	執行額		-	-	-	-			
執行率 (%)		-	-	-	-				
当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!				
平成29・30年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由					
	経済協力開発機構等拠出金	2,750	2,800						
	計	2,750	2,800						
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 33 年度
	5年間で、最大6ワクチンの臨床開発案件に出資する。	出資した開発案件の数	成果実績	種	-	-	-	-	-
			目標値	種	-	-	-	-	6
			達成度	%	-	-	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	CEPI Preliminary Business Plan 2017-2021								

活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標		単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込		
		活動実績	当初見込み								
理事会、出資者関係会議、科学技術諮問委員会、JCG/パートナーフォーラム等関連会合、薬事規制WGの出席回数		活動実績	回	回	-	-	3	-	-		
		当初見込み	回	回	-	-	-	5	5		
単位当たりコスト		算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込			
		単位当たりコスト=X/Y X=総予算額(125百万ドル・5年間) Y=臨床試験第Ⅱ相終了のワクチン種類						単位当たりコスト	百万ドル	-	-
計算式		百万ドル		百万ドル	-	-	-	-	-		
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	国際社会への参画・貢献を行うこと									
	施策	国際機関の活動への参画・協力等を通じて、保健・労働等分野において国際社会に貢献すること(施策目標XI-1-1)									
	測定指標	定量的指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標		目標年度	
								-	年度	32	年度
		WHOの日本人職員の人数		実績値	人	32	34	41	-	-	-
			目標値	人	-	-	-	-	-	51	
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係											
CEPIへの拠出により、パンデミックの可能性のある感染症のワクチン開発が促進され、世界的流行の被害を最小減に留めるとともに、感染症対策の経験が豊富な我が国の知見・技術等の発信により国際的リーダーシップを発揮することで国際社会へ貢献する。											
改革項目	分野:	-									
	(第一階層)	KPI (第一階層)		単位	計画開始時	28年度	29年度	中間目標		目標最終年度	
					-			年度	-	年度	-
				成果実績	-	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-	-		
		達成度	%	-	-	-	-	-	-		
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係											
-											

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	世界的流行となる可能性のある感染症の拡大を防ぐための取組であり、社会のニーズがあると考えられる。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	CEPIIには民間企業も参加しているが、研究開発には莫大な費用が必要であり、民間企業のみ委ねることは困難であるため、政府の支援が必要な事業である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	ワクチン開発が進めば、多くの国々における感染症流行対策につながり、また感染症が発生してからでの対策では遅いため、目的達成に必要・適切かつ優先度の高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	-	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	所管府省名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果	-	
	改善の方向性	-	
外部有識者の所見			
点検対象外			
行政事業レビュー推進チームの所見			
事業の必要性、効率性、有効性の観点から、特段問題ない。			
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
備考			

